

## 大河原町まち・ひと・しごと創生会議

### 第3回会議

平成27年8月25日（火）

○事務局（佐藤） では、大河原町まち・ひと・しごと創生会議の第3回会議を開催させていただきます。まず初めに、会長よりご挨拶をお願いしたいと思います。

○尾形会長 皆さん、どうも本日は何かとご多用なところ、第3回目の大河原町まち・ひと・しごと創生会議にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

本日はご案内のとおり、第3回目の創生会議でございます。本日の議題はお手元にお示しいたしておりますとおり、1から5までございますが、本日は特に7ページ以降の総合戦略の全体像、そして講ずべき施策、この点について事務局から説明をいただきます。その後、この総合戦略並びに講ずべき施策につきまして、時間を十分とりまして皆様とご意見の交換をしたいと、かように考えております。どうか積極的にご発言をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、どうぞ事務局、進めていただきます。

（事務局より資料説明）

○尾形会長 事務局のほうから、まず大河原町の創生を考えるときの大前提となります人口の動態といいますか将来の推計、人口が減っていくということの説明、我々当会議としてはそういう状況だということを理解する資料でございます。問題はこの人口が減少するというので、それに対する課題というものが3ページから6ページまで整理されておまして、その説明がまずあったということでございます。

問題は、きょうのメインテーマは（3）の全体像、そして（4）の総合戦略であります。この点につきまして、これからいろいろと意見交換をしてみたいと、こう思いますが、その前に今事務局から説明を受けて、ちょっと皆さん、どう理解したらいいのかというような点が1つあるんじゃないかと思えます。それは私自身の疑問かも知れませんが、まず整理するためにちょっとお聞きしておきますが、7ページの総合戦略に、右のほうに具体的な施策と、こうありますね。そして8ページ以降、施策、これは10の施策がありますよね。8ページから17ページまで、施策数は10ありますね。この7ページの具体的な施策というものと、それから8ページ以降の10の施策、この施策と2つあるんですが、これをどういうふうに整理して理解すればまずいいのか、ちょっとその辺を。といいますのは、皆さんから質問がいろいろとあると

きに、8ページの具体的な施策について質問があったり、あるいは10ページの具体的な施策について質問があったりということで、ちょっと混線する可能性もありますので、事務局としてはこれから論議する、意見交換したいということの施策というのは、8ページ以降の施策のほうなのか、それとも7ページに記してあります具体的な施策ということの両方なのか、どちらに重点を置いて意見交換すればいいのか、その辺ちょっと受けとめ方にそこががありますと困りますので、その辺ちょっとどういうふうに理解したらいいか説明していただけないか。

○事務局 全体像につきましては、国のシートに合わせてはめ込んだ形ですが、具体的な右側の施策につきましては、今回、取り組み状況を入れておりますので、全体としてこういう流れになって2060年に向かうのではないかとということで、こちらのほうで一旦整理した内容でございます。なので、特にご意見をいただきたいのはやはり8ページ以降の施策ごとの取り組みと。

○尾形会長 8ページ以降の10の施策ですね。わかりました。

そういうことでございます。どうぞ皆さん、ご自由にご発言をいただきたいと思います。

○委員 まず、10ページです。10ページの空き家への移住件数5件となっていますけれども、現在、大河原町では空き家数が何件あって、まずそれが知りたい部分です。それと移住件数5件というのは、これは5年で5件ですから、年に1件ですよね。ちょっと私は少ないんじゃないか、1件だったらテーマに載つける件数かなと今感じました。

それから、12ページですけれども、婚姻届数230件とありますけれども、右側に2014年は215件とありましたよね。なぜ5年間やるのに230件だけなんですか。私は1,000件以上と出てくるんじゃないかなと、その辺ちょっと理解できませんでしたので、教えてください。

○事務局 まず、10ページの空き家についてでございます。ただいま空き家、区長さんのまだ点検の段階ですが、約200戸というお話をいただいております。その中から空き家の状態を、今後実態調査を進めていくと。その実態調査の中でやはり倒壊の危険性、または利活用できる空き家、いろいろなものが出てくると思うのですが、利活用する部分については所有権とかなかなか難しい問題も発生するであろうということで、今回、就農も含めまして、実現できる部分をちょっと低目に抑えた形になってしまっております。

次に、12ページの婚姻届につきましては、1年間ということなので、230件につきましては2019年度、最終年度にはこのような形で230件ということなので、毎年、婚姻の届け出としてはこの人口からしまして200件以上上がっていただければなかなかいい数字ではないかということなので、毎年200件、215件以上で、最終的に2019年度には230件というところに落ちつけば状況としてはよい方向に上がっているのではないかとということで示させていただいております。

○尾形会長 よろしいですか。

○委員 ただ、最後の、ちょっと引かかるんですけれども、2019年だけの目標、5カ年計画でやっているんですから、トータルの目標のほうがいいんじゃないかなというふうに思うんですけれども。

○事務局 足してということですね。

○委員 足して。でないと、2019年だけを目標にしたら、18年が高くなって、19年が5件、10件とかしかない年、何かの社会的影響で、そうした場合、達成できないというふうになるんじゃないですか。

○事務局 あくまでも、目標をふえる方向にして進んでいくという捉え方にさせていただいておるので。

○委員 ですから、目標を設定したら、なるべく目標をクリアできるような目標数字を出す、はっきりわかるようにしたほうがいいと思うんです。

○事務局 5カ年何件とか。

○委員 トータルでね。いかがでしょうか。

以上です。

○尾形会長 事務局、今の件はどうなんですか。

○事務局 もともと国の目標数値を設定する段階がございましたので、今回の婚姻届出数という部分が目標数値としてどういう設定をすればいいかというものを今後ちょっと調べさせていただきます。

○尾形会長 何かほかにございませんか。

○委員 質問ですけれども、よろしいでしょうか。人口推計の関係で、ちょっと私自身、不勉強でわからない部分があるんですけれども、この資料のほうの1ページ目、2ページ目どちらでもなんですけれども、2ということで純社会移動率の設定というところで、社人研の仮定値というところで数字が入っていますけれども、ここの考え方というのはどう社人研では考えているのかなと、私、不勉強でよくわからないんですけれども、わかりますか。

○事務局 その詳しいところになりますと、推計を行ったぎょうせいさんのほうからでもちょっとご説明していただいでよろしいでしょうか。

○ぎょうせい わかりました。

推計の考え方なんですけれども、純社会移動率というのは転入と転出の数から推計をしております。それに関しては、1980年から2010年までの動き、ここを国のほうで一括して各自治体

のものを集約したものから、そこから移動率を計算するという形で仮定値を出しています。それを2015年以降にかけてどういう形の動きになるかという仮定値を出しているという形になります。なので、実態の数字を把握したその数字から出しているという形になります。

○委員 ということは各自治体ごとにこの数値は変わるということですよね。そういう理解ですね。

○ぎょうせい おっしゃるとおりです。

○委員 全国平均とかという形じゃなくて。

○ぎょうせい 違います。大河原町の移動率を計算したものが仮定値という形になっています。

○委員 ありがとうございます。

○尾形会長 どうぞ施策につきまして何でも結構でございますから、こんな施策もあるんじゃないかということでも結構でございますので、どうぞ発言お願いします。

○委員 住民懇談会の中の説明で、質問に対する回答で、川根工業団地に対して手を挙げている企業が幾つかあるというような表現があったかと思うんですけれども、どういった職種があるのかなというところをまず1点お聞きしたいなと。というのは、前回のときに私、皆さんとちょっとお話ししたときに、大河原町内の雇用について皆さんが求めているのが事務職に関する数値が高いということで、ある程度、工業団地で企業を誘致するに当たって、皆さんが就業しやすい職種を選択するのも必要なのではないのかなということで思って質問しました。

○事務局 あのとときは製造業の事業所さんが今のところ打診をしてきているというお話だったものですから、事務関係の多い事業所さんであればマッチングができると思うんですが、製造業でもたしか大河原町の部分は機械設備関係を求める方が多いんですが、そういう部分の製造業ではないと思います。だから、そこもマッチングとしてはちょっと違うかもしれないです。町としてはできるだけ早くどなたかに手を挙げていただいて、張りついていただいて、そういう部分での雇用を促進すると、できれば町内の方での奨励を考えながらという部分がありますが、今のところですと製造が挙がっている部分で、そこで検討をしているという段階です。

○委員 わかりました。じゃ、前に川根工業団地さんの資料を実は私、頂戴して、銀行としてマッチングできないかということで、実はうちの銀行の中のシステムの中にも載せさせていただいて、ただ、まだ手を挙げてくれるところがないので、まだ皆さんのお手伝いまでには至っていないんですけれども、うちに限らずですが、金融機関はどこでもそういった仕組みはとっているはずですので、もっと広範に知らしめてもいいのかなという気がいたします。

○事務局 そうですね。ありがとうございます。

○委員 企業誘致について言えば、地元の企業というのは、前にも言ったのかもしれないですけども、通える範囲が地元の企業だと思うので、大河原町に誘致という考えで、広域で企業誘致というのは考えたほうが良いと思います。自治体のほうに今打診があったという話ですけども、条件が合わないから、じゃ福島県に行くのかとか、山形に行くのかというんだったら、それは非常にもったいない話なので、仙南2市7町の中といいますか、通勤圏の中の自治体に対して、そういう情報、今うちでは条件が合わないけれども、こういう条件だとおたくは合うんじゃないですかというので、広域で企業誘致をする情報共有をするべきだと思います。その中で、定住促進の中に入ってくるんですけども、そういうそこに通勤される方をいかに大河原に呼び込むかということを考えていくと、狭い考えではなくて、もうちょっと目標も上げられるのではないかなというふうに思うので、土地が狭いとか、そういうことを全く考えなくていいんじゃないかなと個人的には思います。そういう意味では、他の自治体の方と本当にこの企業誘致については一体化して、いろんなところにアプローチをかけて、いろんな企業に対する情報収集、今の話もそうだけれども、やっぱり全体としてやるべきだと基本的には思います。

それ以外に定住促進について言えば、他地域の方がここにある企業ができたのでそこに働きに来ると、他地域から、という方についても、じゃ仙南2市7町で通勤圏がどこにあるのかというところで、やっぱり情報が出ているところのほうが、そこから何キロ圏内ですよとか、また関東以西とか他地域から来るときに、どういう気候なのかとかという基本的な情報をもっと出すべきだと。私、いろいろ思うのが、仙台と大河原町の気候、あと東京と3拠点ぐらいを毎日気温とれるんだったら情報をとって、あと積雪量であったり雨量であったり、そういうことを出すことによって、実はここって東北なんだけれども雪が少ないんだよとか、温暖なんだよということが他地域の方にわかるように情報発信するべきだと思います。それが出ていないところだとやっぱり行かないとわからないじゃないですか。そういう意味で、情報配信はできる限りどんどん出すべきだというふうに思います。ただここは温暖で雪が少ないんですよと言っても、それは全くわからない、比較ができないので、一番だと仙台と比べて雪が少ないとか温暖だとか、そういうのとかがわかれば、よりまた蔵王にも近くてとかそういう形で、住むんだったらこちらがいいかなと、それでなおかつ通勤ができる範囲なのかなということを知るような情報配信の仕方が必要ではないかなと思います。

あと、インバウンドのほうについては、やっぱり今の情報の配信の仕方になるんですけども、できるだけ観光情報等についてはネイティブなホームページが必須だと思います。今外国の方が日本に来たときに、情報のあるところに行こうとする傾向があるというふうに聞いてい

ますから、今、大河原町で観光情報についてどれだけ多言語化された情報が出ているのかとを検証されて、できるだけ早期に多言語化、特に東南アジア、近いですから、仙台空港に乗り入れ便があるところの言語についてはネイティブの方にちゃんときちっと翻訳していただいた観光情報、また地域情報が出せるような情報配信の仕方をするべきだというふうに思います。

○尾形会長 情報発信の手法とといいますか、内容と手法というのは、いわゆる例えば仙南2市7町、広域的に多面から2市7町というところが連携をしてそれぞれ情報発信するという、そういうことですか、それとも大河原町に限ってというか。

○委員 それはやっぱりある意味協調しなきゃいけないところと競争しなきゃいけないところとあると思うので、それは情報の内容によるんじゃないでしょうか。気候については、やっぱりここに定住してほしいということであれば、大河原独自の情報をどんどん出して、それこそ他自治体との情報量の差があれば、やっぱり情報量のあるところに行く可能性も高いですから、ただ、先ほど言った誘致の情報については、やっぱりこれは広域でやったほうが、ここは地域間競争になると思うんですね、だから。自治体競争じゃなくて、さっき言ったように、福島、山形、仙台、そこと競争になると思うので、それは広域で情報をきちっとまとめて情報発信しながらやっていかないといけないというふうに思います。また、観光については、これもまたある程度共有しながら、大河原だけではなかなか吸収できないところがあるので、そこは面を広げて、これもやっぱり他地域との競争になると思うので、それはめり張りをつけて情報発信はしていくことが必要だと思います。

○尾形会長 大河原町固有の問題については、大河原町の持っているいわゆるホームページがございますよね。ホームページを例えばもう一度見直して、今おっしゃられたような、何といいますか、興味をそそるような情報とといいますか、そういうどちらかというハードの面の情報というよりも、むしろソフト面とといいますか、そういったところに視点を置いたホームページのつくり方とといいますか、それも一つの行き方だと思うんですね、まずは。そういうことについて、創生という意味から、ホームページのあり方とといいますか、そういったことも考える、見直しをしてみるということも一つの手法ではないでしょうか、手っ取り早いやり方としましては。そのほかにいろんな媒体をつくっていろんなところに提供していくということもあるでしょうけれども、これは媒体の制作の問題とか、あるいは何といいますか、配布箇所の問題とかいろいろあると思いますので、それは研究をする必要があると思いますが、とりあえずそういう自分のところで持つ情報手段とといいますか、あるわけですから、それを少し前向きに、ある意味で興味をそそるようなソフト面を非常に重視した情報のつくり方とといいますか、そう

いうことも今ご発言の趣旨には含まれるような気がしますのですが、そんなことをひとつ。

○事務局 空き家バンクというものを今後整備していく、空き家バンクだけではないんですが、そういう中でホームページ等々、ちょっと今見づらい部分もありますし、日本語でしか見られないという部分がありますので、その辺については早急に対応していかなければならない問題だなということで、委員さんのほうからちょっと前からそういう話はいただいておりましたので、考えてはございます。

あと、ちょっと1点、きのう私、別な会議でちょっと行ったところがありまして、そこの方、東京の方だったんですが、東北の人はやはり宣伝が下手くそなんだというふうな話をちょっと言われました。首都圏から見ると、東北ってどういうところだかよくわからないと。仙台はわかるんだけど、その周りには何があるかわからない、何もないのかなというふうな話をちょっと言われまして、首都圏から見ると、何があるんだかという話で、今、委員さんが言われるように、大河原っていろんなものがあるんだよ、気候的にもいいんだよというふうな情報発信、かなり弱いのではないかとというふうなご指摘をちょっと受けた部分がありました。

私もこの大河原でしか育っていないので、外からちょっと見た目、なかなか見られない部分があったんですけども、そういうふうに外から見た目部分で、宮城県をどういうふうに、東北といったほうがいいのかもわからないですけども、東北を見たい目はどういうふうに見て、どういうふうに改善していったほうがいいのかというふうな意見の部分もしあれば、それも参考にさせていただきながら進めていきたいというふうな部分もございます。

あとは、やはりPRすることによって、外国人観光客が東北は少ないんだそうです。日本全体では、ちょっと数字は忘れちゃったけれども、5割ほどふえているんだそうですけれども、東北はふえていないんですって。関東以南というんですか、あちらのほうだけがふえていて、東北自体は全然変わらないというふうな話で、これもやはり情報の発信の弱さなんだろうなというふうな、その方のご意見をいただいたところでもございましたので、その辺は委員さん、または会長さんが言われるような形で情報のほうを強化していきたいとは考えてございます。

○尾形会長 仙南2市7町の広域のいろんな交流の場というのが、いわゆる行政上の場というのはあるだろうし、そういったところで今後の我が郷土のキャンペーンというか、どういうふうにしていくかとかということは、確かにごみ処理の問題とか水の問題とか、いろいろなことも広域行政の中に当然入る大きなテーマではあるでしょうけれども、そうじゃないいわゆるソフト面の情報交換といいますか、そういったことも広域行政の交流の場の大きなテーマといいますか、そういったことを行動していくと、大河原町が言い出しっぺになって、そういうこ

とを非常に大事なことだというふうに皆さんに認識していただくといえますか、そういうことも大切じゃないですか。その点は、じゃこの辺で。

○事務局　ちなみに16ページに短期・中期工程表というところがあって、その下に介護家族慰労に対する表彰の検討というのがございます。これにつきましてはプロジェクトチームから出てきた話ではないんです。この前の住民懇談会の中からこういう話が出てまいりました。参加人数、住民懇談会全部で40名程度だったんですが、なかなか建設的なご意見をいただきまして、普通住民懇談会を開くと、道路を直してくれ、街灯を直してくれとかという話になるんですが、今回はそういう話は一切なくて、創生に関する意見が全てでした。会長さんとかもちょっと出ていただいて見ていただいたんですが、なかなかいいご意見をいただいたなというところがありまして、これプラス、あと皆様のほうから、もっと強化していただきたいとか、もうちょっとこういうふうやっていったほうがいいんじゃないですかとかという部分もあればまた出していただきながら、あと2回ということで、4回目あたりには大体素案みたいな形で決めていかなければならない、スケジュール的にですね、なってるかと思います。その辺もちょっとお踏まえいただきながら、よろしくお願いをしたいと思います。これにかかわらず、これだけというふうな形ではなくて、別な形でも全然結構でございます。切り口的にはいろんな切り口があるのかと思いますので、これが全部というふうな話になるとなかなか前には進まないのかなと思いますので。

○尾形会長　今の発言に関連するんですけども、住民懇談会、説明会、6回やりました。私も3回ほど、3会場に出席しまして、出席された方々のご意見を脇のほうで聞いていたんですが、確かに参加する人数というのは1会場とも大体10名以下ではありましたけれども、中身は非常に濃かったと思います。

今、事務局がおっしゃった件につきましても、私も後ろのほうで聞いていて、さすが立派なことを述べているなというふうに思いましたし、それからもう一カ所で、私も非常になるほどと思って、我々も考え直さなきゃならんのかなと思った発言がありました。それはこの地方創生というものと非常につながりのある発言だったので、ちょっと私の解釈をお伝えしたいと思うんですが、大河原町というのは明治以降どういう形で発展してきたのかと、そこら辺に非常に、そのことを考えた創生の進め方といえますか、つくり方というのがあるんじゃないかなと。大河原町というのは面積は小さい。それほど農業等で他を凌駕するような、そういう生産物をつくって稼いだ町でもない。大河原町が発展していったのは、仙南の情報の集積地というところが非常に大きなウエートを占めているのではないだろうか、こういう発言がありました。



確かに、私もその後、柴田郡史なり大河原町の町史と申しますか、そういうものを調べてみましたら、例えば大正13年の断面で見ますと、柴田郡の中で大河原町の人口というのは4番目ぐらいなんです。村田よりも少ないんですよ。村田は7,300人ぐらい、大河原は6,800人ぐらい、槻木は8,000人近く、川崎も大河原よりもちょっと多いかそこらぐらい、大正13年の断面で。その後、大河原は非常に人口がふえてきたというのは、大河原の持ついわゆる行政面の集積と申しますか、そういうものを中心にした情報発信、それに商業が加味された情報発信基地としての大河原の成長と申しますか、そういうものが非常に大きかったと。柴田町の近年の成長というのは、これはまた別にしまして、ずっと戦中戦後から見たときに大河原の存在というか、地域的な利点と申しますか、そういう点は情報の集積基地、情報発信の基地としての役割と申しますか、それが非常に大きかったのではないかと。

そうすると、そういう面からの創生施策と申しますか、そういうものは何かないのかなと、そういうことをたまたま感じた次第ですが、これは個人的な意見でございますので、特段取り上げてほしいとかなんとかということではございませんけれども、そういう性格を持った町だということも、これをまとめていく上での感覚的なほうの把握と申しますか認識と申しますか、そういうことが必要なのではないのかなと、そんなふうにした次第であります。個人的な意見ではございますけれども、ちょっと申し述べさせていただきました。

以上でございます。

○委員 一つ質問なんです、空き家対策についてはところどころに出てくるんですが、例えば空き地の対策、例えば宅地になっていて全然あいていたり、農地だけれども作物をつくっていないところ、しかも何か例えば梅の木を何本か植えて農地だよと、税金対策の、そういうところに対して宅地化するための何か進める方策などを考えてもいいのかなというふうなですね。

それから、各担当課が決まっているようですが、町の状況を見ると、各課とも今の仕事で忙殺されているような状況だと私は感じているんですが、その上にこの仕事が割り当てられて、果たしてどこまでやられるのか、その辺がちょっと心配なので、何かあるかなと。

そしてもう一つは、各課に割り当てられても、やっぱり集約する企画財政課がどの仕事にも入っていて、目を張って、目をつけておくと、どこまで進んでいるかと点検するような、やっぱり企画財政課はずっとに入っていて眺めておく必要があるのかなというふうに。

○事務局 まず、空き家だけではなくて空き地という、私、町民生活課にいたときに、空き地のほうで草がぼうぼうでというふうな苦情が何件も来ているのが毎年のことだったんです。ここで言う空き家の関係とセットで、空き地の部分についても空き地バンクみたいな形と申しま

すか、一緒、セットというふうな形で譲りたいという方とかという部分を、不動産業者ですとなかなか情報発信しづらい部分がありますので、首都圏とかそちらの方が見るというのは、やっぱり町のホームページをまず最初に見るだろうと思いますので、そういうところで整理をかけながら、空き地、空き家等々を登録してもらって、貸したいよ、売りたいよという部分をマッチングさせていけばいいのかなというふうに空き地の部分についても考えてはございました。

それと、担当課を示している部分があるんですが、ここにある2019年までの取り組みが全部を含めると30か40ぐらいになるんですかね。そのくらいを多分やれというとなかなか難しいと思います。委員さんがおっしゃるとおり、マンパワーもございませんし、地方創生という形で来年度から新型交付金が参るわけですけれども、2分の1しか来ないという状況になっています。昨年度の交付金ということで来たのが2,600万円の作成費用とあとは子育て関係で使った部分、医療費無料化とあとは各幼稚園とか保育所のほうに備品等ということで2,600万円ほど来ております。そのほかに割り増し商品券を発行いたしました。あれが3,700万円ほど来ております。その3,700万のほうは多分もう来ないんだと思いますので、2,600万円、3,000万円にしても、2分の1くらいしか来ないみたいなんです。ですから、1,500万くらいしかまず補助は来ないんじゃないのかなというふうに若干思っております。

その中でも、一般財源を使ってもやらなければならない部分は当然あるかと思えます。でも、財源というのは限られておりますので、ここに全てをやれと言われてもなかなかむずかしい部分がありますので、この中から重点ポイントを今後決めていって、何点か決めて、それを19年度まで進めていって、まちづくりなり、人づくりなりをやっていけばいいのかなというふうに若干思っているところではございます。

8ページ目のほうを見ていただきますと、19年度までの取り組みということで6つほど挙げてございます。この中で何を大河原町として重点項目としてやっていけばいいというのがあればご意見をいただきたいと思えます。これからプロジェクトで進めていく話なんです、こちらあと残り2回しかございませんので、もしよろしければ、こういう内容をもっと積極的にやっていくべきだという部分を出していただく、または別な部分でもっと出してということで、1項目1項目ずつ、会長さん、何かやっていっていただければいいかと思えます。

○尾形会長 そうだね。

○金井副会長 すみません、それとすごく関連しているんですけれども、やはり全てが全て新しいものを取り入れているわけではなくて、これまでやってきたものの延長線上にあるものがたくさん恐らくあると思うんです。そうしたときに、例えば7ページ目の左から2番目ですか、

地方人口ビジョンの隣に5つの箱があって、ここに大きな大枠となる理念が掲げられていると思うんですけども、例えばこの5つの項目ごとにこれまで何をしてきたのか、その成果が一体どれほどのものだったのか、さらにその中で何に挫折したのかとか、そういったこれまでのやっぱり何ていうか失敗から学ぶことも重要でしょうし、これまでの過程が見えてくると、じゃ何が足りないのかということがより鮮明に見えてくるかなと思いました。

特に日本の場合は結構政治の面でも、問題が起きたらそこという形でパッチワーク的にやってしまって、どうしても継ぎはぎになりがちなので、やはりこれをやっていくという一本の核があったら、その核は絶対にぶらさないで、いかに補強していくのかということで、連続的、発展的に施策を行っていくということが重要なと思いますので、できればこれから、ここで計画として、方針として立てられた内容がこれまで一体どういうふうに行われてきたのかというプロセスというか、そして今ここでご提案している内容がどう位置づくのかという、そのマップのようなものがあるとより、例えばここで失敗してきたのであれば、じゃここはそこまで深追いせずにもっとここに力を入れたほうがいいんじゃないのかとか、やはり大河原町ならではの課題というか、向き不向きの性質もあるでしょうし、そういったところを追求していく上でも、これまでの失敗や成果というものを知っておくことが重要なと感じています。

○事務局 その辺の部分を1つずつ施策ごとの課題という部分で、弱点というか進まなかった理由とか、そういう部分を挙げさせてはいただいているんですが、確かにもともとやっている部分をなかなか進まないで強化して前進させると、あと、やはり大河原町として足りない部分があったので、それを回復させるという部分が大体大きな部分になっているんじゃないかと思うんです。なので、大きな枠組みとしてこの5つの目標に関してやるとなるとなかなか文面的に難しいところがございますので、やっぱり施策的に小さく切った上で、課題と対応ということでちょっと挙げさせていただいた内容になっております。

特に、8ページから進みますと、雇用関係からしますと、なかなか行政がタッチする部分が進まないで来たという部分がございますので、企業誘致とか、雇用促進の奨励金制度、こういう部分もなかなか前進しているとは言えない部分もございますし、就農関係も、担い手というか、後を継ぐという部分だけでも助成金とかもあるんですが、それも実績的にはないということで、あと特産物づくりというのも、就労、雇用、そういう部分までにつなげる部分までもなかなか進まなかったと。農業、林業、商業という部分に関して、そういう発展性という部分が目に見えてできるということがなかなかないので、商業に関しては民間頼りというか、そういう力のほうで引っ張っていただいているという部分が多いというところなんです。

一番後の新たな起業、第二創業というのは、これはちょっと町長が推している部分がございます。やはり今までは町内の中で本業としている部分はあるんですが、それを別な形でして起こすとか、また代わりになった際に、また新たな仕事の仕方を考えて、それを出していったら雇用につなげるとかという部分がありましたら、町内の中での雇用機会のチャンスがふえるということなものですから、そういうものを支援していったらどうだという部分を入れさせていただいている段階でございます。

このようなことから、大体2019年に固まってしまったんですが、2020年から移動しているものもあるんですね。創生本部会議のほうで話し合った中で、やはり進んでいない部分については早目に着手したほうがいいという部分ございましたので、2019年にスライドして、2020年以降なかなかちょっとすかすかに見えているところもあるわけでございます。ですから、将来的にこういう部分が取り組み内容としては必要になってくるということもあると思いますので、そちらのほうもアドバイスいただければということも考えております。

今回については、そういうなかなか進まない部分について改善していったら、いい状況のほうに持っていきたいという部分が多いところであるんですが、そういう部分で10の施策としてまとめさせていただいたので、その部分で皆様からもっとアドバイスをいただければと思います。

○事務局 8ページ目の19年度までの取り組み内容の中で、上の2つについては現在進行形でやっている部分です。下の4つについては今後新たにやっつけようとする部分です。上の2つは、企業誘致、今までパンフレットも何もない状態で、今年からパンフレットをつくって、やっつけようとか名古屋に行って企業誘致のPRを今始めたという段階、雇用促進奨励金制度は、制度はあるものの、なかなかPR不足で利用者がいないという状況にまずはなるかと思えます。

9ページ目のほうにいきますと、ここは真ん中の家族に優しい働き方支援制度、これも制度的にはあるんですが、なかなか利用者がいないということで、これもまだということ、上と下についてはこれから取り組む事業というふうな形になります。

10ページ目の部分については、これは全て新たに取り組むというものになるかと思えます。

11ページ目になりますが、一番上の通年観光、これは前からいろいろ言われておるんですけども、大河原町は桜がメインだということで、なかなかほかのところには手がつかないということでした。あと「まちの宝探し」は今回の新しい内容というふうな形、あと農商工連携による地場産品のブランドということで、Nextゆめプランの前段階の後期計画でも挙がっているんですが、やはりそこになかなか着手していないという部分には、ですからこれも継続にはなっているんですが、実績としてまだ出てきていないと。

あと、観光ボランティアさんの養成というの、なかなか働きかけてはおるんですけどもできないという部分があります。その下の「情報発信し隊」につきましては、これは委員さんのほうからのご提言でちょっと入れさせていただいた新しい部分、あと商店街へのWi-Fi設置も新しい部分というふうな形になります。

12ページ目のほうにいきますと、結婚支援プロジェクト、これはまだ町としてはやってごさいませんので、新しい事業となります。あと広域的な婚活支援という部分、これも広域的にはやってごさいませんので、これも新しい部分になります。小中学校に結婚、出産、子育ての人生プランの学習機会の提供ということで、現在実施はある程度されているみたいなんです。ただ、それをもう少し強化しましょうという部分になります。

次の13ページ目のほうの子育て短時間勤務制度、これについては啓発というふうな形になっていますが、なかなか難しく、まだこれも利用がないというところ。あとは両親学級の開催、マタニティマークの普及ということで、両親学級は多分やっていない事業です、町としては。あと産後ヘルパー、これもやってごさいません。あと不妊治療に要する費用という、これは不妊治療はやってごさいます。県の制度がありまして、県のほうでやっている制度に上乗せをするというふうな形をとらせていただいております。あと子ども医療費の18歳までの無料化拡大とあと所得制限の撤廃、18歳まではことしの10月から、所得制限の撤廃については来年の4月から行うというふうな方向づけになってごさいます。

あと、公共施設の土日開放による親子の交流の場を整備ということで、現在、いきいきプラザについては用事がないときに閉館している状況があります。こことか中央公民館とかをフリースペースというふうな形で好きに使ってくださいという形、壊したり汚したりしたらそれは弁償してくださいとかという規約はつくるかもしれませんが、そこで食べてもらってもいいですし、好きに使ってください、自由に来館してくださいというふうなスタイルがいいのかなと。

プロジェクトチームで長岡市にちょっと行ってきたんですけども、雨の日とかに子どもさんを遊ばせるところがないということで、室内に屋外の公園的なイメージの場所を設けたんです。そこには自由に来て、そこで食べて、遊んで、お子さんと過ごして、あとは帰っていくという自由来館スペースというスペースで、そこで自分が好きなこと、本当に外にある公園と同じような感覚で遊んでいけるというスペースをそこに設けているんです。そういうふうなイメージをちょっと私は今持ってごさいます。これは新しい取り組みになってくるのかなと若干思っています。

14ページのほうにいきますと、まず子育て施設の備品整備の充実ということで、これは今年

度やるというふうな形で今進んでおります。あと民間活力による多様な保育のサービスの提供ということで、公的機関のほうの保育関係しか今ないんですね。NPOさんのほうでこういう一時預かりとか放課後の学童保育みたいなものをやりたいというところも実際あるようでございます。そういうところを後押ししながら、安心して働ける環境を、預かってもらうことによって親御さんが7時ごろまで働けるとか、そういう環境をつくってあげればいいのかということここでここが入っているところでございます。あとファミリーサポートセンターということにつきましては、契約するみたいな形になるんですが、子どもを預けたい人と子どもを預かって見てあげたいという人をマッチングさせて、そこで一定程度の費用は発生するんですけども、そういうふうなマッチングのサポートセンターをつくっていったらどうだというふうなことです。これはうちの町はやってございませんので、新規事業というふうな形です。

○事務局 あと放課後子ども総合プラン、これが放課後児童クラブと放課後子ども教室という別な課ごとにやっているものがございます。学習を教えながら子どもさんを預かると、また別なほうは体験とかそういう部分に重きを置いて時間を過ごすという部分があるんですが、それを一体にした形として総合的に行いたいというのが国の考えが掲げられております。そういう部分の実現できるかどうかということで、やはり大河原町もその方向に行ったほうが良いということで施策として挙げております。

○事務局 15ページ上から3つ目、高齢健康の運動教室とかはやっておるんですけども、固定化をしているみたいなんですね。参加者が固定化しているということで広がりが無いというふうな形の中で、これをもうちょっと広げていきたいと思いますというふうな部分になります。そのほかの4つにつきましては新しい事業ということで、その中でも「歩きたくなるまち」の創造というふうなのをちょっと推進したいなというふうに事務局的には思っております。これにつきましては、その動機づけなりなんなりを行いながら、町内を歩いて散策していただきながら、メタボ改善というわけではないですけども、そういうところをやっていって健康で長生きしていただければというふうなことを中高年層からやっていければというのが趣旨となっております。そのほかのものにつきましても新たな場ということですが。

○事務局 16ページにつきましては、地域包括ケアシステムがやっぱり医療関係との組み合わせというか、全体的には地域も、あと高齢者の方のボランティアを含めて地域で支える形をつくるということで、今までの考え方を新たに皆で持つということになっておりますので、まだ整備がされていないと。今までは包括支援センターのほうに機関があったんですが、そういう相談、ケアを行うということなんですけども、それを在宅で高齢者が過ごしやすくするため

に初めに介護予防から始まり、またサービスも入れながら、また介護もひとり暮らしでも暮らしていけるような形という部分をつくるということになって、システム的にはこれから新しいものになるんです。

介護家族支援、また認知症サポーターの部分につきましては、継続しております。ただ、登録者というか、やはり趣旨普及を図って、皆さんにも認知度をもっと持っていきたいということを考えていると。介護予防手帳は、これからつくって配布をする方向性が出てきているという部分です。これも新しいこととなります。介護家族慰労の表彰に関しても検討を進めるのはこれからということで、新しいということになります。

最後のほうも、「大河原大学」開校準備・研究というのも、これは新しいこととなります。3世代同居利用住宅の新築・増築、こちらも新しいものということで、子育てもしやすく、介護もしやすく、また3世代で省エネというか、そういう住宅にもなっていると。さまざまなものがやはり3世代でカバーし合えるのではないかとこの部分もございましてということで、新たに出てきたものです。空き家実態調査、こちらのほうもこれからということになります。町内各所防犯カメラもこれから検討していくと。SNSメール配信もこれからでございますし、地域づくり推奨行事というのもこれからということで、こちらの面につきましては全て新しい段階になっております。

○事務局 ということ、ちょっとなかなか答えにはなっていなかったかもしれないんですが、新しいものとあとは今やっている部分でできなかった理由、若干触れさせていただきました。ちょっと今すぐというとなかなかこれしかご回答できないところなんですが、こういう中で何かあればお知らせをしていただければなと思っています。

○尾形会長 今、副会長の質問に対して事務局から、いろいろと今までの施策との関連でどれが旧来の施策の延長線なのか、あるいはまたどれが新しい施策としてやることなのか、そういう観点からの説明がありましたが、今まで役場仕事というのはいろんな面で、いろいろ法律なり条例なり、そういったものに基づく施策といいますか、それが非常に大きなウエートを占めているわけですね。それはそれとして継続してやらなきゃならんということも当然あると思いますが、ここに掲げた施策を、これをまとめていった段階で、来年度をいわゆる初年度とした創生施策展開年度ということになると思うんですが、それは一応固まった段階で予算措置と申しますか、もちろんいろんな部が関連してくると思いますが、予算措置を講ずると、こういう形になるんですか、今後のあれとしては。施策と予算との関係。

○事務局 先ほど申したとおり、予算に関しましては全国自治体も含めまして新型交付金のほ

うを当てにしていたという部分がありましたので、そういう部分である程度の総合戦略としてその財源をもって充てていきたいという話があったんですが、2分の1の対象交付、また挙げていきますと、観光の司令塔組織とか、地域連携を推進するとか、高齢者を地方で受け入れる日本版CCRCという名前もついているのもありましたが、また先駆的、先進的事例を持った上で、交付金のほうは重きを置いて交付するという中身もございました。大河原町からしますと、やはりそういう部分からしますとちょっと合わない部分もございましたので、財源的にはそんなには来ないのではないかと。

ただ、将来的な総合戦略から見てやらなくてはいけない部分を、28、29、30、31、この4カ年の順番をもちまして優先的に行うもの、またやはり計画、また調査を行った上で、ちょっと若干時期をずらして行うものということで、その順番を決めながらしなくてはいけないということなので、優先、または重点的なものを先に考えながら28年度に反映していこうかなと思っております。

ただもう一つは、やはり原課といいますか、事業課のほうの調整がまだ、名前は出しているんですが、まだ調整はとれておりません。その部分で調整を、この素案が固まった上で原課と調整ミーティングをした上で予算のほうにつなげていきたいということもございますので、まだ調整としてはあと1カ月半か2カ月ぐらいはかかるのではないかと、ちょっとこちらのほうでは想定しております。

○尾形会長 それと、大河原の通称一目千本桜というものは国内でも冠たるいわゆる自然文化遺産だと思うんです。これをベースで、それをさらにいろんな各地から来ていただくと、そのためには桜の木の老木を再生させるような施策とか、あるいは散歩道を整備するとか、あるいはまたそれを案内できるような観光ガイドを養成するとか、そういう施策は今回の国で言っている地方創生に関する施策の交付金といいますか、そういうものの対象にはなり得るんですか。

○事務局 例えば地域と地域を連携するというお話で、例えば柴田町とか、つながった部分での観光強化という、そういう話ですと、やはり共同化ということで交付金のほうの対象ということで見られる可能性はあります。ただ単体としてやるという部分につきましては、なかなか見られないと。特にハードの事業で何かを整備をするとか、そういう部分からしますと、ソフトのほうを中心にしていくということになります。

○尾形会長 なるほどね。例えば文化財友の会というのがございますね。この文化財友の会が、桜というのは大きな大河原の自然文化財だと、こういうことで桜に関する何か整備計画みたいな、整備の一つの考え方といいますか、そういうことを例えば町から文化財友の会さんのほう



に何か考えていただけないかという仮に諮問といいますか、そういうことを出したときに、文化財友の会として仮にそれを受けて、そういう整備計画みたいなものをつくると、しかし、それには予算的なものはないというときに、町として文化財友の会さんに対して委託費ではありませんけれども、それなりの費用を交付して、これを原資としてつくってこないかと、その原資を国からの交付金を当てにするとかという、そういうことはどうなんですか。いや、例えばの話ですよ。

○尾形会長 町が委託するわけですから、委託というかアウトソーシングするわけ、文化財友の会さん、例えばだよ。それで、わかったと、みんなで相談しているんなものを、とにかく計画みたいな、そういうものをつくってみようと、しかしお金がかかると、それはないと、だから町としてそれは助成すると、その助成金を国の創生費用から引っ張り出してくるというような、そういう手品ではないですけども、そういう具体的にテーマとしては。

○事務局 町が独自に人件費に充てたり、また整備をするという交付金ではないというのは確かにそのとおりでございまして、あとはそういうソフトとして町を立ち上げるためのものにつながるという。

○尾形会長 あくまでも地方創生の一環として。

○事務局 例えば文化財に重きを置いた上でのプロモーションみたいな形で外部からの流入、移住、定住、または来訪者ということで、そういう部分につながった何かしらの計画としてまとめられればという部分はわかりますが、やはりそういう町の中に有益に働くものという考えとして入れていくものであればということになると。なので、それが交付金に合うかどうかもちよっとなんですが。

○尾形会長 交付金の基準というか、そういうものは出されているんですか。

○事務局 要綱自体はまだ出ていません。

○尾形会長 ないんでしょう。

○事務局 ですから、どれが合う、どれが合わないというのはこれからの話になるかと思いません。その話はまた別の機会でもいいのかなとちよっと思っております。

○尾形会長 もちろんそれは町の創生、将来にかかわる問題で、何も今回のこれをまとめるときに全てそこに入れてしまわなきゃだめだという、そういうものではないですから、ですから、将来、創生を考えたいいろんなことをやっていく一つのアイテムとして、例示的なことですが、そういうことだって今後考えていってもいいんじゃないかなということです。

○事務局 特に行政だけが考えるというだけではやっぱり一方通行になりがちなものですから、

やっぱりそういう部分を、一番最後のページにも載っております大河原大学とかということでの地域の担い手をつくった上で、町ごとの特徴を出していくと。例えば郷土学を学んでいただいた部分によって、継承者とか、観光、文化財、そういう部分での学的な部分の継承を図っていただくという部分を何かしら自主企画として上げていくと。何かしらそういう担い手学科みたいな部分の大学のほうで広がりが出れば、そういう部分は町として特徴が出てくると。

○尾形会長 ですから、ここで、まち・ひと・しごと創生という大きなテーマだから、だから、ある仕事というか、あるプロジェクトを計画し遂行することによって、人の育成といいますか、そういうことのほうが現実的だと思うんですよ。だから、それを人の創生にもつながるんだと、単に町の整備だとか、美化、整備だけじゃないよと、これは、あくまでも町としての人間の創生につながるプロジェクトなんだということで、そういうものは交付の対象にならないかというような、そういう発言を何といいますか、オファーしていくといいますか、そういうこともできるのではないかというふうに思うんですよ。

だから、さっきの事務局の話だと、こういうものじゃなきゃ交付金の対象にはしないと何かとかという、そういう基準なり予測なりがまだ今の段階ではないんだと。石破さんの言うように、とにかくどんどん新しい発想を出してくれやと、それこそ皆さんのアイデアなり発想が一つの出発点になった創生なんだということを石破さんはどこに行っても言っているわけですよ。だとすれば、そういう今言ったような言葉を、一つの創生のテーマになり得ると、まち・ひと・しごとにつながってくるものではないかと。だから、ある意味での作文のしようだと思うんですよ。その辺でちょっと研究してみたらどうなんですか。

○事務局 交付金に関しては、やはり先駆的なものかどうかというのは国がちょっと判断する内容ですが、大河原町にとってみては、やっぱり人をつくって町を支えるという部分は今後続けなくてはならないという部分はございます。

○尾形会長 ただ、こういうふうにして人をつくるんだとか、なかなかそれは難しいですよ。市民大学なり大河原大学をやれば人ができるなんてそんな生易しいものじゃないですよ。プロジェクトというか、一つの仕事というか、そういうことを計画し、それを完遂し、それを継続していくことによって、そこに初めて人の育成というか、人の存在というのがかかわってきて、それこそ人の創生というものにつながっていくんだと思うんです。だから、人の創生というのは、それだけを取り上げていくというのは非常に難しい問題ですよ。ある一つのプロジェクトがあり、いろいろなものを計画し遂行することを通じてその町の人々の創生を、若者の創生を図っていくとかという、やっぱりそういうシナリオじゃないとなかなかこれは難しいんじゃない

いかと思いますよ。何もそれは今年中に全部つくり上げてしまわなきゃならないということじゃなくて、考え方としてそういう面からの人の創生ということが大事なんじゃないかと思います。

○事務局 そういうのも含めまして、この「大河原大学」開校準備・研究という中でちょっともませていただくということによろしいですか。

○尾形会長 だから、結構ですよ、それは。そういうものだろうと思うんですよ。

○委員 ちょっと具体的なやつでいいですか。11ページの通年観光に向けた観光振興の研究とか、「まちの宝探し」による観光資源の発掘とあるじゃないですか。私、ちょっと先に言ったように、下にある目標の中で、他地域からの来訪者3,000人の増加というのがありますけれども、それこそ大河原町の観光資源を掘り起こすことによって、それをさっき言った仙台空港に就航している都市にポスターなり何かを張るとか、JALとかANAとピーチとかと組んで、DCキャンペーンがかなり効くんですよ。だから、同じようにJRだけじゃなくて、他のある程度公共交通機関みたいところで、せっかく仙台空港に来る人がいるんだったら、仙南に呼び込めるような形のことをすればいいかなと思うんですね。そのためのポスター、観光PRに予算が使えるのであれば、他地域からの呼び込みになります。そのポスターの具体的内容について、通年観光に向けた観光振興の研究になりますし、「まちの宝探し」の観光資源の発掘にもつながると思います。

一つ、もっと私は自治体の方も民間にべったりになるべきだと、癒着はいけないけれども。一つはここ、三全さんがあります。ちょっと本社を仙台に移してしまったけれども、基本的には三全さんは大河原町のお菓子店、これは全国でもかなり有名で、ちょっと旧道沿いに前からは私はあったほうがいいと思ったのが、直販の店舗をもっと大きく併設して、先日、帯広に行ったときに、六花亭さんの本社で、あそこでイートインができるような形をつくっておられるんですね。かなりきれいにつくって、なおかつ、生クリームを使っているので、4時間以内でしか食べてはいけない、持って帰ってはいけないということをやっているから、食べに来なければいけないんです。札幌では食べられないというので、わざわざ帯広まで来てくださいということをやっているんで、そういうのを町と三全さんと話し合いをしながら、三全というのは大河原町の会社であって、ここに来たら食べられるものがあるというので、そういう意味では来訪客を呼ぶと、そのための整備を町も協力してあげることが、場合によってはまた本社を大河原に移してくれるかもしれないし、本当そういうことだと思うんですよ。

実際に、結局さっきの誘致もそうだけれども、受け入れというか、やっているところはどこまで親身になってやってくれるかというのは民間もそうなんですよ。だから、税金を使って

一民間企業にということであれば、それはどんどんよそに流れてしまうと思うので、もっと私は民間に寄っていいと思います。ヒルズさんなんか、日帰り温泉をつくったからかなりの集客をしていると思います、大河原町にとって。なおかつ、もちぶたというブランド豚をつくって、なおかつ、どぶろくまでつくっているじゃないですか。これをもっと自治体がPRすべきだと思います、一体となって。そうすることによって、さっきの年間3,000人増というのはそんなに難しい話ではないんじゃないかなというふうに思うので、こういうあるもののさっき言った掘り起こしとかにつながって、いや、民間だからあとは民間で勝手にやってくださいみたいなことでは全然進まないことだと思うので、議会とかでいろいろ言われるかもしれないけれども、やっぱりもっと私、地方は民間、地元の企業にべったりになるべきだと思います。誘致企業は景気が悪くなったら出ていきますから、やはり地元で育った会社というのはそこで何となく踏ん張っていきますし、逆に言えば、そこが伸びていけば地元雇用につながるというのが自明の理なので、そこはもっともっと地元の会社に対する優遇措置というのは税金を使ってどんどんやるべきだというふうに、それこそ創生につながると私は思います。

○委員 今のお話を聞いて私も同感だったんですけども、あともう一つ思い出したのが、桜にしても何にしても、結局見て終わりとか、あるいは食べて終わりというふうにするのと、どうしてもリピートは難しいですね。情報発信もちろん大事なんですけれども、やっぱり来た方がもう一回来たい、あるいは何回でも来たい、友達も連れてやってきたいというふうに思わせるような内容をやっぱり考えていかない限りは、いたずらにイベントの数をいっぱいふやしても、結局ただ受け身の、来た人が本当に受け身の状態で帰っていくということだとうまくいかないと思うんです。

私の知っている限りでは、山形県は結構首都圏からの観光客がリピーターの数が本当に多いという話を聞いたことがあります。例えば、じゃどういうふうになっているのかというと、結局、名産品とか、あるいはおいしいものをただ食べて終わりにしないで、体験型というんでしょうか、一緒になってつくる。もちろん範囲とか限界はあるかと思いますが。素人考えですけども、例えば菓匠三全さんでつくっているずんだのまんじゅうの一部を一緒につくってもらったりして食べてもらうとかというふうな、いわゆるいろんな仕掛けの中に参加した人が、観光ということを見て終わりじゃなくて、食べて終わりじゃなくて、そこで何かを一緒につくって、それが楽しかった、あるいは難しかったと、だからもう一回挑戦したいと、ときにはちょっとやっぱりハードルがかえって高いほうがリピーターにとっては魅力がある観光地になるということもあると思うんですよね。

ですから、ぜひ体験型を組み込んだ、しかもそれを通年型で四季折々というふうに年間数回行うとかというふうにして頑張っていけば、最初はちょっと苦しくても、きっと必ずこれは山形県みたいに、山形県はたしか、私、知っているのは、蚕の繭を煮たりして、それから糸をとったりするというのを参加している人にやっている。あと今度はその取り出した糸を使って別な職人の方が織ってくれたりすると、自分が紡いだ糸で自分なりのものが後で届くとか、やり方はいろいろあるかと思うんですが、言いたいことは要するに、とにかく体験してもらうということ、ちょっと難し目のことであっても、それを逆に励みにしてリピーターが来られるような、そういうアイデアですね、プランというか。だから大事なのはやっぱりプランナーというか、本当に計画立案をやっぱり本気になって考えると。

今のご意見のように、本当に行政だけ頑張ってもだめだし、ときにはやっぱり民間はもうけなきゃいけないということも一つの大きなエネルギーになっているんですね。やっぱり絶対人を集めなきゃだめだとか、あるいはここは企業秘密だけれども、ここのところはいいよというところも必ずあるはずなので、そういうところなんかをうまく出してもらいながらやっていけば、きっと単なる観光じゃない、魅力のある、まさに大河原にもう一回行ってみようというところにつながっていくのではないかなというふうに思いました。

○尾形会長 ありがとうございます。

女性の方、お三人方、どんなご意見でも結構ですから、何かございませんか。

○委員 この会議の一番最初に人口の減少云々という表があったものですから、大河原町の出生率を上げたいとか、人口の減少を防ぐとかということが私は一番の最初の問題なのかなと思いつきながら出席していたんですね。保育園なんかもそうなんですけれども、やはりいろんな面で皆さんが大河原に住みたくないと、先ほども会社の誘致というものがメインにもありましたけれども、なかなか会社を誘致したとしても、従業員がそこで大河原の方だけが30人、10人、何人と働けるものでなければ、私は住居のほうをもっとふやしていったらどうなんだろうかなと思ったんですね。

金ヶ瀬に住んでいるものですから、ここ3人そうなんですけれども、私、金ヶ瀬に就職したときに、今のような広表地区があんなに広がって、そして免許センターができて、さくら大橋ができて、あのような人がたくさん、土曜日、日曜日は生協やユニクロ、あの辺かいわいに駐車場がないくらい人が集まってきているんですね。ということは、あのくらいお金もおりているんだろうなど。人が集まる、買うか買わないかはわかりませんが、人が集まってきている。広表地区があのようにどんどん家が建っていく。

金ヶ瀬が小学校も中学校も2クラスで建てたんですけれども、今現在、建てたときはよかったですけれども、それがだんだん1クラスになってきて、空き教室がたくさん出てきた。小学校も空き教室が出てきて、1年1組しかないんですね、1学級1組。それが今は2組になって、3組になるかもしれないんです。というのは、どんどんやはり人が住んでいる。私の保育園のほうもどんどん入りたいという子どもさんがふえてきています。これ、待機待ち17人ということがありますけれども、これは4月1日ですから、今はもっとふえていると思います。2倍、3倍になっていると思います。私の保育園でも今現在十何名の子どもたちが待機待ちをしています。入れません、やはり。フルタイムで働いている方がどんどん入っていますので、途中から入るということはまず無理です。

なので、やはり企業もいいんですけれども、住む人をたくさん、住みよかったら、やはりまたどんどんお友達を呼んでということで、広表はどんどんふえています。そういうお話もやっぱり聞いています。大河原は白石よりも中心にあって、村田にも行ける、高速にもすぐ乗れる、新幹線にも20分くらいで乗りに行けます。あと大河原駅から仙台に通うのも非常に便利なので、大河原は非常に住みいいですということで、わざわざ大河原の広表に土地を求めて買っているという方がたくさんいます。

よくさくら大橋を渡って向こう側に行くんですけれども、かなり田んぼがたくさんありますし、畑がありますので、農業の方が後継者がいないということであれば、農業を本当に継続してやっていこうかという方々もおられるのではないかなと思うんです。工場もそうですけれども、やはりもう少し宅地というものがあって、もっと住む人がふえていけば、もっともっていろんな面でも活性化したり、やはり人がふえるということは、買い物に行きます。食事をしますから、やはりいろんなものを購入しに行く。子どもができればバースデイに行く、しまむらに行くというのと同じように、あんなにたくさん発展してきていますので、やはりそういうところも大事になってきたのかなと。もちろんもちぶたさんも三全さんも、私、あと蔵王の飴本舗さんも、あれはやっぱり大河原ブランドだと思うんです。やっぱり大河原にあるお店のブランドはもっともっと共同でPRをしたりして、もっと皆さんが住みよく、そしてそこからまたみんなを呼ぶというので、発信できていったらどうなのかなとちょっと思いながら。

○尾形会長 ありがとうございます。

今、委員さんがおっしゃった考え方を事務局としてはいろんな文面で10の施策の中にいろんな形でちりばめて、それを進めていこうということにはなっているとは思いますが、やはり一番大切なのは、おっしゃったように、とにかく住む人が多くなると。それはいろんな手

法があるということですよ。そういうことを今強調されたわけでありすけれども、そういう観点から改めて事務局のほうとしましては施策のつくり方、これをさらに整理していただきたいなと思います。

○委員 議事の進め方なんですけれども、今日は何時までやっているんでしょうか。

○尾形会長 一応2時間程度ということで。

○委員 ということは、次の次、つまりもう一回このような会議を開いて、その次はもう素案としてまとめるという、さっきのお話でしたよね。そういうわけでもないんですか。

○事務局 いえ、基本的に次回で大体素案まで持っていきたいとは思っております。

○委員 というのは、今、質問は全体に対する質問でいいと思うんですが、意見を出したりするというのを、やっぱり区切りながら進めてほしいんです。つまりそうでないと、結局、仕事をつくり安心して働けるようにやるというところについての意見が出てきて、次に今度は後ろのほうの若い世代のというところの意見が出てきて、また今度は別な人が新しい流れをつくるとかと、あちこち行ったり来たりするよりは、やっぱりこちらでいうと柱から柱ごとに進めていけば、少なくともきょう残された時間で上の2つは意見交換が終わったと、次回は次の3つをやりましょうとかということが見えてくるかと思うんですが、今の話だと次回はもう素案づくりだということで。

○事務局 素案をつくっていただいて、あとまだ住民懇談会とかパブリックコメントとかいろいろやっていかなければならない。11月にはもう固めてしまって、来年度の予算もつくっていかねばならないので、これを取り入れながらというふうな形になりますと、時間的な制約も若干出てくるのかなと。9月18日に創生本部をして、9月25日に第4回という形になって、10月22日が最終。その4回目に素案を固めた中で、どうしてもやっぱり平成28年度から始めなくてはいけないという部分を各課と調整を図っていくという部分がございます、そういう中でやはり一番最後に最終的な総合戦略の素案という部分を10月22日に提示という形にさせていただくという内容になっております。やっぱりそれぞれ進める形はございますが、今回もある程度6日前ぐらいに資料をお渡しして見ていただいたという段階で、やっぱり気になる部分、強めたほうが良い部分という部分でご意見をいただいて、そういう部分をまたプロジェクトのほうに持ち帰って、そういう部分でまだ出てきていない地域と地域を連携する、またKPIの成果目標のほうをこれでいいのか詰めていくと。また、あと2020年度以降につきましているいろいろ行ったり来たりしてございましたので、2020年度以降の施策もできるだけ想定した中身で設定していくということを考えながら、プロジェクトチームのほうで素案をまたまとめをして、創

生本部のほうで見ていただいて、次の9月25日には多少すっきりした形を出していきたいと。

○委員 素案という形で出てくるんですか。

○事務局 素案という形で、このスタイルというか、この方向性はそのまま、基本目標、方向性、施策という部分での出し方になっておりますので、この取り組み内容について、今後やはり実現できるかできないかという部分でまた見ていただくような形にはなります。

○委員 もう一つ、すみません、事務局に質問ですが、7ページの左側の5つの柱がありますよね。これはもう崩せないんですよね。つまり人間の数というか、スタッフとそれから予算の絡みで、このうちの例えば3つはできないから、2つだけやるとかという形はできないんですか。これは可能なんですか。

○事務局 これは国の総合戦略のメニューというか、そちらのほうをかたどった形なので。

○委員 つまりこの5本の柱に沿った、そしてさらにすぐに取りかかれそうなものを素案としてもう少し絞った形で9月25日のほうには出てくるということですよ。

○事務局 はい、そうです。

○委員 そうしたら、ぜひ次回はその5本柱について素案として幾つかだとかありましたけれども、やっているはずなので、時間設定をやっていただいて、そして皆さんの意見を集約してもらえば、事務局のほうも一つ一つ話が終わっているので、助かるんじゃないかなというふうに思いますので、よろしくをお願いします。

○尾形会長 今、貴重なご意見をいただきました。ただ、私がちょっと進行上いろいろと問題があったやに思われておりますが、例えばここで施策が10あると。じゃ、はい、1つ、1番目、じゃやりましょう、意見ございませんか、はい、じゃわかりました、じゃそういうふうにします、じゃ次の2番目の施策、若い世代の結婚を促進すると、こういうことよりもむしろ、例えば安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援とか、多様な保育環境を整備するとか、あるいは健幸の実現のための環境づくりを進めるとか、在宅で暮らし続けるための体制づくりを進めるとか、これは全部関連するんですよ。はい、じゃ在宅で暮らし続けるための体制づくりを進める、このための意見、質問ということにするよりも、むしろこういうふうに関連する、そういう施策でありますので、と解釈しましたので、全般的なところからご意見あるいは質問といったことのほうがよろしいのではないかというふうに進捗する者として考えましたので、そういうやり方をとりましたので、ひとつご了解をいただきたいと思っております。

ただ、これからは、きょうは3回目でございますので、だんだんいろんな意見も固まりつつあるといたしますか、出されましたので、この次の9月の会議に当たりましては、できるだけ先



ほどのご発言の趣旨に沿うような意見交換、まとめを考えながら進行していきたいと、こう思いますので、よろしくご協力をいただきたいと思います。

4時を過ぎましたので、本日のところは以上をもちまして事務局が用意された話し合いのテーマに関する意見交換を終わりたいと思います。

事務局、その他何かご発言がございませんか。

○事務局 今回の話の中でやはりまだ不明であるとか、またご意見がちょっと不足したという場合につきましては、また意見送信票によりましてこちらのほうにいただきまして、できれば9月1日、来週火曜日ぐらいにいただきますと次のプロジェクトチームの会議のほうに間に合います、また一から揉ませていただくということをさせていただきたいと思います。

○事務局 あと、次回、素案という形で重点的なもの、何をやったらいいかというのを、子育てであればこれをメインにやっていったほうが人を呼び込めるとか、定住していくとかなんとかという部分、あと観光なり仕事づくりなりというのが多分あると思います。これは今後4年間やる上で必要ではないかという部分を教えていただければ、それでちょっとマッチングさせながら素案づくりのほうに向かっていきたいと思います。総花的に何でもやりますよというふうな形ではちょっと多分役場的にもできませんので、ポイント、ポイントでこれを重点的にやっていく、継続するものはそのまま継続でいいとは思いますが、新しくやる部分についてはこれとこれを重点的にやって、それに予算を重点的に配分して4年間やっていきますというふうな形でひとつお示しをしたいと思いますので、事務局としても考えますが、委員さんのほうの中でもそういうふうな考え方でちょっと出していただければ助かると思います。その中でまたご議論をしていただきながら方向性を決めていって、ある程度の素案というふうな形で持っていきたいというふうに考えてございますので、よろしくお願いをいたします。

○尾形会長 今、まとめるに事務局から次回の会議の趣旨のご説明がありましたので、そのことを了として、本日の第3回の会議を終了したいと思います、副会長、最後に。

○事務局 1つだけちょっと残ってしまいまして、申しわけございません。この前、宮城県の地方創生の総合戦略のほうに素案として上がってきた部分を見させていただきまして、総合戦略の下に副題がついておりました。副題につきまして審議会のほうでキャッチフレーズを集めた結果、その中の1つの言葉を引用させてもらったという説明もございましたので、今回、このような形でいろいろな将来像に向かった対策とかを載せているんですが、大河原町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定という部分の下にやはり何かしらつけたいなと思っております。

その副題としまして、皆様のほうからちょっと募集させていただければなということ、そ

して行政から見たつくりですとやはり気がつかない言葉とかフレーズとかがあると思いますので、もしひらめいたということがございましたら9月1日までにファクスか何かでいただければありがたいなと思っております。委員さんのお名前を付しただけで、こちら1枚物、送っていただければ、総合戦略ということで企画に届くように受付のものに説明しておきますので、何かしら合ったものがあればということで、皆様のほうからちょっと募集させていただければと思います。来週9月1日火曜までということでお願いできればと思います。それを集めた中でまたプロジェクトのほうでももませていただいて、このような言葉が合っているとか使いたいという部分があれば、そういうのをしまして、次回その副題も入れながら皆様のほうに提示したいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○尾形会長 それでは、本日の第3回目の会議を終了したいと思います、副会長、閉会の。

○金井副会長 本日は大変お疲れさまでございました。

本日は、住みよい町はどういった町なのかとか、あるいは大河原町の大学ということで人をつくっていくようなビジョン、そして企業の誘致のあり方や三全などの既存の企業の新事業スタイルの活用とか、そういった形でまさにまち・ひと・しごとそれぞれの議論が交わせたのではないかと思います。特に町のビジョンは、「歩きたくなるまち」というビジョンが明確にございますけれども、そのほかにも、じゃ大河原町民としてのビジョンはどんな町民を育てるのかとか、そういった、あるいはどんな仕事、あるいはどんな企業のあり方が望ましいのかですかとか、そういった人や仕事のビジョンというものも今後明確にしていくとより骨のある施策ができていくのかなというふうに感じました。そのまち・ひと・しごとのビジョンがはっきりしたときに、それぞれこの全て3つに通底するようなキャッチフレーズがこの1枚に集約されるのかなというふうに考えておりますので、皆様9月1日までにご提出のほど、ちょっと私もうまく思い浮かぶかわからないですけれども、よろしく願いします。

本日はお疲れさまでした。